

分科会5 農業の生物多様性向上  
「生物多様性を育む農業に取り組む農家を支援する事例」

# コープデリ連合会 「佐渡トキ応援お米プロジェクト」 10年の取り組み報告



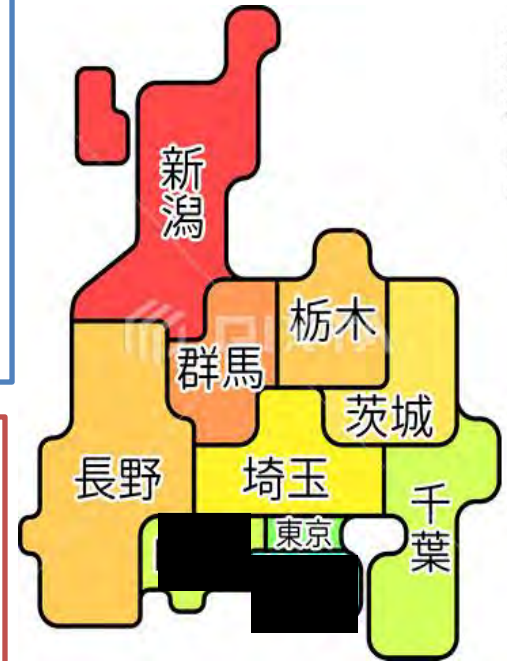
コープデリ生活協同組合連合会  
副理事長 永井伸二郎

# コープデリ生活協同組合連合会とは？

関東・信越1都7県7つの生協の連合会

コープみらい(東京、千葉、埼玉=353.3万人)、  
いばらきコープ(37.4万人)、とちぎコープ(26.0万人)、  
コープぐんま(32.1万人)、コープながの(31.9万人)、  
コープにいがた(12.4万人)、コープクルコ(新潟=10.5万人)

宅配(180万世帯が利用)、店舗(151店舗)、福祉、共済、電力小売りなどの事業と環境、福祉、子ども・子育て支援、平和・国際貢献、消費者の権利拡大などの社会的な活動を行っています。



# 佐渡トキ応援お米プロジェクトとは？

2010年佐渡市と「佐渡トキ保護活動を目的とした協定」を結び、「CO・OP産直新潟佐渡コシヒカリ」を対象に販売したお米1kgにつき1円を「佐渡市トキ環境整備基金」に寄付をし、トキのエサ場になる田んぼづくりに役立てると同時に、生き物をはぐくむ農業の大切さをお知らせし、交流を通じて理解を深めあうと取り組み。



2010年6月の関係者の調印式

# 佐渡の農村文化とトキ

江戸時代に「金」の採掘により人口が増加し、米作りのため田んぼが拡大、田んぼはトキの餌場に

明治時代に狩猟の解禁によりトキの乱獲、田んぼでの農薬の使用によるエサの減少

1981年に野生のトキの絶滅。1999年に中国からつがいを譲り受け、2003年に環境省が野生復帰のためのプロジェクト開始

2007年から島を上げての生き物を育む農業水推進。2008年放鳥開始。2020年に佐渡で野生458羽に



# プロジェクト開始の経過

1990年頃「組合員においしい米を提供したいという担当者が「佐渡米」と出会い、1994年から「産直佐渡米」としてブランド化



2004年に島内10市町村が合併し「佐渡市」誕生、当時の高野市長は「環境にやさしい島づくり」を提唱。2007年にトキの自然放鳥。島内上げて農薬・化学肥料を減らした生き物を育む農業を推進。環境保護と佐渡米の普及で島の活性化を



コープデリの組合員の「おいしくて安全で安心して食べられるお米を食べたい」「トキを育む農業を応援したい」という想いと佐渡市の思いが一致しプロジェクトに

年度	寄付金額	
2010年	1,563,028	プロジェクト開始
2011年	2,400,000	
2012年	2,089,894	
2013年	2,154,003	
2014年	2,400,000	
2015年	2,415,546	「冷凍焼きおにぎり」扱い開始
2016年	1,805,473	※前年の作況指数91の不作影響
2017年	2,710,671	「レトルトご飯」扱い開始
2018年	2,708,842	
2019年	2,672,752	
2020年	3,237,683	コープクルコ取り扱い開始
合計	26,157,892	



2020年は精米  
で3,056トン(JA  
佐渡の取り扱いの約25%)

# 佐渡米普及の取り組み

佐渡トキ必読お米プロジェクト

## 環境を守りながら産地と進める米作り

高品質お米プロジェクトの目的は、環境を守りながら、おいしいお米を育てることです。環境にやさしいお米作りを進めることで、お米の品質を向上させ、消費者の健康にも貢献します。

米から始まった  
つながりをきっかけに、  
結びつきを深めてきました

「産直」は「佐渡米」ブランドの先駆け

佐渡産米、新米を早く届けるために、産地と消費者をつなぐ「産直」の取り組みが、お米の品質向上に大きく貢献しています。産地と消費者をつなぐことで、お米の品質を向上させ、消費者の健康にも貢献します。

私たちのお米で「安心」を感じてほしいです

佐渡産米、新米を早く届けるために、産地と消費者をつなぐ「産直」の取り組みが、お米の品質向上に大きく貢献しています。産地と消費者をつなぐことで、お米の品質を向上させ、消費者の健康にも貢献します。

産直トキ必読お米プロジェクト

環境を守りながら産地と進める米作り

産直トキ必読お米プロジェクト

環境を守りながら産地と進める米作り

## お米

環境にやさしい米づくりをしています

佐渡産米、新米を早く届けるために、産地と消費者をつなぐ「産直」の取り組みが、お米の品質向上に大きく貢献しています。産地と消費者をつなぐことで、お米の品質を向上させ、消費者の健康にも貢献します。

産直トキ必読お米プロジェクト	産直トキ必読お米プロジェクト	産直トキ必読お米プロジェクト	産直トキ必読お米プロジェクト
産直トキ必読お米プロジェクト	産直トキ必読お米プロジェクト	産直トキ必読お米プロジェクト	産直トキ必読お米プロジェクト
産直トキ必読お米プロジェクト	産直トキ必読お米プロジェクト	産直トキ必読お米プロジェクト	産直トキ必読お米プロジェクト
産直トキ必読お米プロジェクト	産直トキ必読お米プロジェクト	産直トキ必読お米プロジェクト	産直トキ必読お米プロジェクト

産地が見える安心

## すこやかな産地の中から自分らしいお米を選び

トキとの共生を  
目指して育てた  
産直トキ必読お米プロジェクト

産直トキ必読お米プロジェクト

環境を守りながら産地と進める米作り

産直トキ必読お米プロジェクト

環境を守りながら産地と進める米作り

宅配のカタログ紙面(180万世帯に配布)

# 産地との交流①

毎年の生協の組合員による田植え・稲刈りの交流・募金贈呈式  
～米作りへの参加と収穫の喜びの体験～



2020年の贈呈式





## 産地との交流②

組合員と家族による田んぼの生き物調査、トキの餌場としての  
ビオトープづくりへの参加

～生物の多様性の実感と生き物を育む環境づくり～



# プロジェクトの進化

## 佐渡市環境経済好循環戦略推進委員会(2011年～2013年)

佐渡市と新潟大学が共同でトキを象徴とした佐渡の環境の再生と経済活動の好循環のモデルづくりの委員会。→ コープデリは、佐渡米利用者分析から佐渡米のブランド化、販売戦略を検討

佐渡市が2011年6月国連食糧農業機関(FAO)から世界農業遺産(GIAHS)に認定 →ポイントは生物多様性農業の推進、棚田などの風景、伝統文化と農業集落、そして消費者と結びついた持続可能な農業

第2回生物の多様性を育む農業国際会議(2012年7月＝佐渡市で開催) →生産者と消費者という関係を超えた価値の共有

# プロジェクトの今後

## ①SDGsの視点でのプロジェクトの強化



一人でも多くの組合員に環境に配慮した農業(生物多様性農業)を佐渡のトキを事例に知ってもらうこと

## ②持続可能な農業のための佐渡米をはじめとしたお米の普及

日本人のお米の消費量は毎年減少し続けている。(30年間で25%減少)。生産者と協力し米と米原料の商品の普及を図る



佐渡市トキの森公園の展示

ご清聴ありがとうございました。

